

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

2020年10月発行 NO-80

地域リハ支援センター



～上半期を終えて～



今年は雨が多く寒かった7月、猛暑の8月と変化の激しい季節の巡りとなりました。また、令和2年初めから日本だけでなく世界中が新型コロナウイルス感染症の恐怖に晒され、不自由な生活を余儀なくされ、いまだに収束に至っておりません。私ども地域リハビリテーション支援センターもその活動に支障をきたし、多くの研修や専門相談事業を自粛している状態です。来年2月に予定していたリハビリテーションケアフォーラムもウイルス感染症の集団発生を危惧して中止となりました。現在は、今話題のZoomなどインターネットを介して対面式ではない形でリハビリテーション普及事業を継続しております。来年度はぜひ皆様のもとへ新しい形でリハビリテーション支援事業がお届けできるよう検討しています。

今回の新型コロナウイルス感染症により、私どもが当たり前と思っていた社会生活がこんなにも簡単に崩れ去ってしまうことに気付くとともに、世界中の人々がこの感染症で亡くなられた人々を悼みつつも新しい生活様式を身につけ乗り越えようとしていることに勇気づけられました。これからインフルエンザの流行時期にも入りますが、ぜひ三密の回避、手洗い消毒、うがいの励行、マスクの着用など感染症対策を日常生活の中に取り入れこの困難な事態を乗り越えましょう。

神奈川県リハビリテーション支援センター 所長
村井政夫

上半期の専門相談の件数について

今年度4月からの専門相談の件数についてのお話をします。



相談件数は、コロナウイルスの影響で昨年比約35%の実績でした。当然のことですが感染を心配されて、ADLや生活のQOL向上・維持という意識はあっても相談に踏み出せないのは無理のないことと思われます。

脳血管障害、神経・筋疾患などの方の相談が激減した反面、知的障害者施設から身体機能評価の相談が増えています。理由としては、本来春から屋内外での活動を期待していたが、感染対策で活動が制限されて身体機能の低下につながった（知的障害者入所施設の特性上、リハ職の介入がない施設も多くリハビリアプローチができなかった）ことも相談につながったのでは考えます。また、6月に県内の知的障害者入所施設にアンケートをお願いしたことで、地域リハ支援センターを再認知していただけたのかとも思います。

これらはあくまでも推測ですが、9月の連休は全国的に主要観光地の人出が増えたと報道があるように、人々の認識も感染対策を講じながら徐々に元の生活にシフトしているように感じます。連休明けからわずかですが相談の電話が増えてきたように感じます。このまま世の中がすぐに元の状態に戻るとも思えません。今後の相談の動向について注視しながら活動していく所存です。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(小川 淳)

令和2年
4～10月

リハ専門相談
(10/19 現在)

4～10月(10/15時点)	新規	継続	電話	訪問	来所	メール
脳性麻痺	0	2	4	0	0	0
神経・筋疾患	4	6	6	3	0	1
脳血管障害	5	3	8	1	0	0
脊髄疾患	0	1	1	0	0	0
脊髄損傷	6	9	8	6	1	0
骨関節疾患	3	0	3	0	0	0
後天性脳損傷(除CVA)	1	5	4	4	0	0
知的障害	8	15	8	9	2	3
内部疾患	0	0	0	0	0	0
その他(切断・加齢等)	5	2	7	0	0	0
不明	2	0	2	0	0	0
合計	34	43	47	23	3	4

4～10月(10/15時点)	訪問	来所
補装具・福祉用具機器	11	0
環境整備	2	1
身体機能評価	6	1
ADL指導	0	0
訓練プログラム指導	3	0
介護指導	1	0
支援内容検討	0	0
医療	0	0
その他	0	1
合計	23	3

リハ専門相談

頸髄損傷(四肢麻痺)の方から『ネットをやりたい。テレビをみられるようにして欲しい』と相談がありました。現在、身のまわりのことのすべてを誰かにお手伝いしてもらわなければならない状態であり、その煩わしさや自分自身に対する不甲斐なさ、遠慮からくる活動性の低下などがお話から窺えました。



i pad は、頭頸部の動きを利用して、口(クチ)マウスで操作することになりました。また、右上肢の動きが良好であったため、ジェリービーンスイッチを設置し、ホームボタンの操作を右上肢で行えるように設定しました。
また、i pad で使用できる学習リモコンを選定し、①テレビ ②エアコン ③電気 操作ができるように設定しました。

車いす座位の耐久性が低く、すぐに疲れてしまうため、日中のほとんどの時間をベッド上で過ごし、テレビをみたり、奥様に操作をしてもらいながら i pad でインターネットを閲覧していました。
i pad 使用時は、奥様が付きっきりになってしまうので、奥様・本人ともに余暇の時間が制限されていました。本人が 好きなときに、好きなだけ 楽しむことができるよう、機器の選定・環境設定の検討を行いました。

現在、この設定で問題なく操作ができており、日中の活動時間の増加・奥様の余暇時間も確保され、お互いに心のゆとりができたようです。重度障害を呈した方にとって 自分でできる ことがあるということは、何より自信の回復につながり、今後の生活を豊かにしていくという意味においても非常に重要なことであると考えます。これをきっかけに耐久性が向上し、車いす座位での活動が増えることを期待しています。(清水 里美)

地域リハ支援初!!

オンライン専門相談

リハビリテーション専門相談は、電話やメールでの相談だけでなく、地域の支援者と協力して現場に訪問し対応をしています。しかし、今年度はコロナの感染予防により現場に訪問できない状況があり、8月よりオンラインでの相談を開始しました。最初の相談は、老人保健施設のセラピストから入所者の車いす調整について相談がありました。まずは、画面を通して当事者の身体状況・車いすの評価を行いました。こちらが準備した車いすを使って対応方法を提示し、それをまねしてもらいながら車いす上の姿勢調整を検討しました。画面上なので、通常よりも時間はかかりましたが、現場で行う内容に近いことができたと思います。

今後も相談のご依頼があれば対応していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。(小泉 千秋)



パソコンを通して
アドバイスを
行っています!



『視覚障害のある方への支援』が開催されました！



9月1日（火）に今年度初となる研修会、
『視覚障害のある方への支援』が開催されました。

今年度は、コロナの影響により例年通りの開催がむずかしく、
時間短縮（1日→半日）、少人数での開催に加え、受講生のみな
さまには事前の行動や体調確認のお願いなど、さまざまな面で
協力をいただきながらの開催となりました。

視覚障害者支援として、コミュニケーション訓練や誘導法・
日常生活場面での接し方など、障害体験を交えながらの講義は
『介助される側の怖さを感じることができました』とお声をいた
だき、より理解が深まったのではないかと思います。

また、眼科医からは『ロービジョンケア』についてお話し
いただきました。視覚障害の原因疾患のほか、視覚の身体障害者
手帳を取得可能な方以外でも、視覚の異常や見えづらさで生活
に困っている方がどのような手順で支援を受けられるのかなど
を詳しくお話ししていただきました。

体験用 模擬メガネ



白杖での歩行体験



コロナ感染対策によるプログラム変更もあり、受講生のみなさまには大変なご迷惑をおかけしましたが、
少人数だからこそ活発な質疑応答や参加者同士の交流など、有意義な時間になったのではないかと思います。

ご協力ありがとうございました！

講師：神奈川リハ病院 眼科医師 久米川 浩一先生 視能訓練士 齋藤 奈緒子氏
自立支援ホーム 矢部 健三氏、内野 大介氏、内記 郁氏、佐藤 伸行氏

（清水 里美）

地域リハ支援初の
オンライン研修会

『住宅改造・改修セミナー』が開催されました！



9月19日（土）に地域リハ支援センターにとって初めての、
オンライン研修会『住宅改造・改修セミナー』が開催されました。

初めてということもあり、講義担当者もどのような形式をとれば受講生
の方の理解が深まるか四苦八苦しながらスライドを作成し、準備や段取り
も不慣れで何度もリハーサルをくり返すなど、すべてが手探り状態での開
催となりました。

プログラム内容

- ① リハビリテーションの視点からみた住宅改造・改修について（PT 小泉 千秋）
- ② 事例を通して考える（OT 清水 里美）
- ③ 住宅改修費用の助成について（SW 小川 淳）

アンケートのご意見

- ・質疑応答はリアルタイムでやって欲しい
- ・質問を共有できたらよい
- ・ライブ感が欲しい など

受講生のみなさまのご協力もあり、当日は滞りなく開催することができました。
アンケートでいただいた声を参考に、よりよいオンライン研修になるように検討していきたいと思います。

（清水 里美）

地域リハビリテーション研修会 変更・中止のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大予防により、年内の研修会の一部変更・中止が決定いたしました。

変更内容は下記の通りになりますので、ご確認ください。

*詳しくは研修日の2か月前にホームページにてお知らせいたしますのでご覧ください。



排泄ケアの知識と実践	10月28日(水)	30人	中止 になりました。
摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際	11月3日(火)	30人	オンライン研修 に変更となりました。
褥瘡予防セミナー	11月17日(火)	24人	オンライン研修 に変更となりました。
通信機器を利用した環境支援の実際	11月21日(土)	20人	中止 になりました
PT・OTのための臨床動作分析	12月5日(土)	24人	中止 になりました
高次脳機能障害セミナー(小児編)	12月6日(日)	30人	オンライン研修 に変更となりました。
高次脳機能障害セミナー(実務編)	12月19日(土)	40人	オンライン研修 に変更となりました。

高次脳機能障害者支援

『地域での当事者家族会』



高次脳機能障害者支援において、当事者同士のピアサポートは非常に重要です。以前に行った調査では、自分一人で障害に向き合っていると「覚えられない・物事を段取り良くできない・2つのことを上手にこなせない」といった症状にどう対応したらいいのかわからず、試行錯誤・暗中模索の日々が続く、と当事者の方が語ってくださいました。また、家族も同様で、生活障害を抱える子、配偶者、親と過ごす中で、どのように本人と関わり、どのように向き合っていけばいいのか、難渋するそうです。

そのような当事者家族のために、神奈川県リハビリテーション事業団内に「協働事業室」を設置して、NPO法人脳外傷友の会ナナの会員さんがボランティアで火~金曜日の10~15時に相談対応を行ってくださっています。ただ、「身近な地域で相談できる場所がほしい」という要望もありましたので、地域の障害福祉サービス支援者やナナの会会員と連携して、小田原(第1金曜日:おだわら障がい者総合相談支援センター)、相模原(第1土曜日:ぷらすかわせみ)、大和(第2水曜日:大和市障害者自立支援センター:現在新型コロナウイルス感染防止のため休止中)、伊勢原(第2金曜日:ふくじゅ)、藤沢(第1水曜日は当事者会・第3水曜日は家族会:チャレンジII)にて当事者家族会を開催しています。

当事者家族会では、ご自身の抱えている困りごと等をお話しいただき、同様の経験をしたことがある家族や当事者から、実体験に基づいた対応方法や、焦らずに症状や生活課題と向き合っていく様子を語っていただきます。このやり取りは、支援者である私たちとしても非常に参考になっています。今後も、地域支援者・家族会と連携しつつ、このようなピアサポートの場を継続していけるように、取り組んでいきます。(瀧澤 学)

編集後記 『秋』、食欲の秋、旅行の秋でありGo To イートにGo To トラベルと活動的になる季節です。新型コロナウイルス感染が収束されていない状況やインフルエンザウイルスなどにもそろそろ注意しなければならぬ季節です。手洗いにうがい、マスクにソーシャルディスタンスと感染対策をして楽しみましょう。(y・i)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601